

●演習コース／単科生の方へ(入江講師より)

【過去問について】

これまでの学習で、一つのテーマに対する基礎と関連問題の攻略は十分かと思いますので、これからは、「本試験」の攻略について学んでいきます。

電験三種の難しさには、内容の難しさもありますが、どこでどんな内容・難易度の問題が出題されるかが分からないという難しさもあります。

ですが、出題として、いわゆる難問奇問(難易度 C)と呼ばれる問題は3~4問程度で、それ以外はある程度難問であっても、今まで学んだ知識を駆使して解くことが出来る問題です。なので、まず出題された問題を一通り見て、難しそうな問題はパスし、解けそうな問題、得意な内容から解き、一通り解いた後、難問をじっくり解くようにするのがオススメです。

この判断を試験中にできるようにするために、問題への「判断力」・「対応力」を磨く必要があります。どちらも難しいものですが、考える基準の一つとしては、今まで演習コースで実施してきたテーマ別講義のレベルです。

テーマ別講義では、電験三種の出題に対して必要な知識を広く扱い、また過去問題は、70点程度得点するために必要な問題をピックアップしています。なので、今後の学習で解けない問題があった場合、

その問題の解答解説を見て、今までの知識で解けそうなものは本試験でも解くべき問題なので、今までの知識とリンクさせていき、解答解説を見ても全くわからないものは本試験でも解けなくてもよい問題と判断し、この問題は解くべきか、どんな解き方が考えられるかという「判断力」・「対応力」を養ってください。

また、「判断力」・「対応力」を養うための練習には10年過去問題集を実施するのが良いと思いますが、過剰に何周も回す必要はありません。

5回、10回と繰り返し実施するほど、問題を考えて解こうではなく、過去どう解いたかなと思いだそうとしてしまい、

本試験で必要な考える力ではなく、その問題に対する記憶力のトレーニングになってしまいます。どちらかという、1~2回分をしっかりと実施した方が実りは多いので、1問1問をしっかりと丁寧に解くようにしましょう。

今後、レベルチェック模試、直前答練、公開模試と本試験練習の機会は十分にありますので、完璧を求めず、焦らず一つずつ力を身に付けましょう。

また、気を楽に、あまり思いつめずに取り組みましょう。

60点分得点出来たら OK くらいで大丈夫です。

悩みがあれば、質問メールなどを利用し相談ください。
